

## 2016年度 日本泌尿器科学会 (JUA)/米国泌尿器科学会 (AUA) 交流プログラム

### 2016 JUA/AUA Academic Exchange Program 参加報告

山本 義明 (山口大)

私は2016年度JUA/AUA交換プログラムで、ニューヨークのMount Sinai病院での研修の機会を頂きました。High volume centerで、毎日朝から晩まで世界の最先端の手術の勉強がしたいと希望致しました所、幸いにも受け入れて頂きました。以下、そのご報告を申し上げます。

山口県出身の、都会での生活経験のない私が、大都会マンハッタンの巨大な病院で勉強する機会を頂きました。英語のスピードが速く、周りに日本人はおらず、病院内はあらゆる人種の人達が働いていました。日本から一人でやって来た私は気後れし、圧倒されました。そんな状況でしたが、ロボット支援前立腺全摘術でご高名なTewari先生(写真1)は、私と武中篤先生の母校が同じとわかると、神経温存の分類を“武中分類”とおっしゃって、親しみを込めて説明して下さいました。度々、わかったか? 質問は? Happyか?とおっしゃり、私的的を射ていない質問にも付き合ってくださいました。全例、MRI、fusion biopsy等の、詳細な前立腺癌患者情報を一枚の紙にまとめて提示して下さい、更に神経温存の分類を示して下さいだったので、大変勉強になりました。

腎癌のロボット支援手術でご高名なBadani先生(写真2)は、度々日本に手術を教えに来られている親日家で、いつも笑顔とウインクで話しかけて下さいました。ロボット支援の腎部分切除、巨大腎癌の腎摘、腎尿管全摘、膀胱全摘、膀胱尿管新吻合術等、速さと数mm単位の正確さ、どれも私にとっては神業のような手術でした。分からない所は必ず質問させて頂き、多い時で1日4例、気が付いたらノート一冊がメモで一杯になりました。

巨大都市マンハッタンの一人暮らしは、言葉では言い表せない厳しい側面もありました。そんな時、力になって下さったのがMehrazin先生(写真3)です。電話番号を教えて頂いていなかったら、乗り越えられなかった大きな山がいくつかありました。Sfakianos先生(写真4)は、私が黙っていても話しかけて下さり、更にゆっくり話して教えて下さることで、どれだけ励まされたか知りません。これらの先生方はMount Sinai病院で圧倒的な症例数の手術をこなす多忙な中で、あたたかくご指導して下さい、感謝の気持ちで一杯です。

また、スペイン、インド、ブラジルから来られた研究



写真1 Tewari先生と



写真2 Badani先生と

者とシェアハウスで一緒に生活をする貴重な体験もさせて頂きました。相手の文化を理解でき、お互いの心が共感できた瞬間は喜びでした。31日間、人種のるつぼニューヨークに身を置かせて頂くことでできた最高の人生勉強でした。



写真3 Mehrazin 先生と



写真4 Sfakianos 先生と

最後になりましたが、私を快く送り出して下さった山口大学泌尿器科の皆様、特に松山豪泰先生、このようなプログラムを用意して下さいましたJUA・AUA両学会の

方々、更に、私の事を心配してあたたかな言葉やアドバイスを下さった多くの先生方に、心より感謝申し上げます。

---